

海外教育特別研究スポーツ交流指導案

平成15年9月17日(水)～9月18日(木)

小学校高学年対象24名～32名ぐらい

指導者 T1 柴田 栄 T2 上原陽平
T3 稲葉 健 T4 城野明菜
T5 高坂茉里 T6 柄澤紗絵子

1. 単元名 バスケットボール(ボール運動)

2. 本時の学習と指導

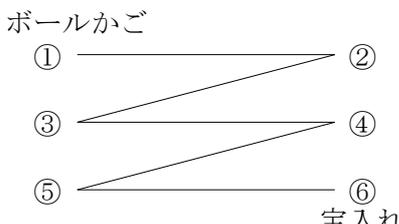
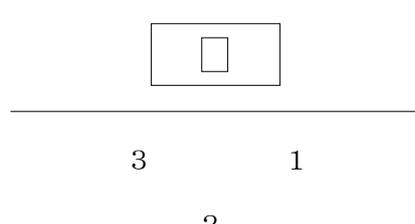
(1) ねらい

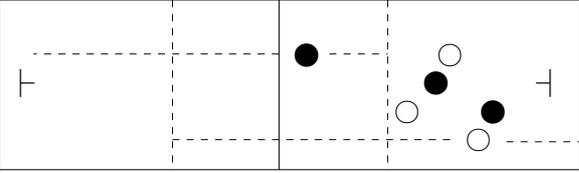
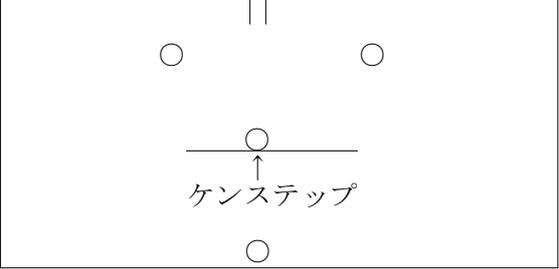
- パスやドリブルを使い、ボールをゴール下に素早く運び、シュートにつなげるゲームができる。〈技能〉
- チーム内で互いに協力し、声をかけ合い、最後まで最善を尽くしてゲームをすることができる。〈態度〉
- 場やルールを生かし、一人ひとりが動きのめあてをもって練習したり、ゲームで使おうとしたりすることができる。〈学び方〉

(2) 準備 バスケットボール、ゼッケン、得点板・・・(用意していただきたい物)

たすき、ホイッスル、家庭用タイマー、・・・(持参する物)

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点
はじめ 10分	1. 集合、あいさつをする。 2. ボールを用いた準備運動や補助運動をする。 ・1人、2人でのボールハンドリング 〈8の字まわし、投げ上げキャッチ、ツイスト、アップダウン、ドリブル、パス 等〉	・チームごとに並び、元気よくあいさつをさせる。 ・健康観察をする。 ・一生懸命やっているチームや児童を賞賛する。 ・運動を効率よく行わせ、ボールに慣れさせる。
な	3. ミニゲーム(チームごとに実施する。) 〈だるまさんが転んだ〉 《ルール》 ・子はドリブルをつきながら鬼に近づき、鬼はボールを上に向けて、それを捕ったら振り返る。鬼がボールを捕ったら、ドリブルを止めストップする。ボールが手元から転がったり、身体が動いたりしたらアウト。鬼と手をつないでいく。 〈宝運び〉 《ルール》 ・グループ(6～8人)で半分に分かれて向かい合う(3～5m間隔)。ボール(宝)を次々とパスし、時間内に何個運べたかを競う(30秒から1分)。途中で捕球ミス(床に落とす。)をしたら、失敗とみなしボールは取りに行かない。 ボールの順番によってパスの種類を変える。 1球目・・・チェストパス 2球目・・・バウンズパス 3球目・・・オーバーハンドパス 〈シュートゲーム〉 《ルール》 ・一人ずつ3カ所でシュートを打つ。同じグループの残りの人は、リバウンドを捕って、パスをする。シュートを打つ位置に印をつけ、順番にしたがって、シュートを打つ。時間内に何点取れたかを競う。 ボードに当たる・・・1点 リングに当たる・・・2点 ゴールを決める・・・3点	・各チームに担当者(T2～T6)がつく。T1は巡回し、支援する。 《運動のねらい》 ・ドリブルをつきながら、動いたり、止まったりすることによって、ドリブルの技能を高めることがねらいである。また、鬼を見ながら、動くことによって、視線を上げてドリブルをする大切さに気付かせる。 《運動のねらい》 ・速く正確にパスができるようにすることと、ボールをしっかり捕ることがねらいである。  ボールかご ① ————— ② ③ ————— ④ ⑤ ————— ⑥ 宝入れ 《運動のねらい》 ・いろいろな角度からシュートをするによって、自分の得意な位置を見つけることがねらいである。また、時間を制限することにより、素早く動きシュートを打てるようにする。 

か	<p>〈3 on 3〉 《ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーフコートで3対3のゲームを行う。ディフェンス側は、必ず片足を入れた状態でディフェンスを行う。時間を決めてオフェンスとディフェンスを交代する。得点は、次のようにする。 ボードに当たる。・・・1点 リングに当たる。・・・2点 ゴールを決める。・・・3点 ・得点が入ったとき、ボールがラインの外に出たとき、ファールがあったときは、スタート地点からやり直す。 	<p>《運動のねらい》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケンステップを使い、ディフェンス側の動きを制限することにより、よりシュートを打ちやすくすることができる。また、ルールを工夫して、誰もが得点できるようにすることで、意欲づけを図る。
50分	<p>4. ゲーム1 《ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数・・・1チーム3人の兄弟チーム ・時間・・・前後半ともに2~3分 ・得点・・・リングに当たると1点。 シュートが決まると2点。 ・特別ルール 全員がシュートし、得点できたら、ボーナス点5点。  <p>5. ゲーム2 ・上越チームとの親善試合を行う。 《ルール》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1ゴール負け交代制とする。挑戦チームは、エンドからボールインする。 	 <p>スタート地点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気よく試合開始のあいさつをさせ、意欲を高める ・試合中は、児童同士でお互いに声を出し合い、励まし合うようにさせる。 ・動きのよい児童に対して、賞賛の言葉をかけ、周りの児童により動きを気付かせていく。また、動きが今一步の児童に対しては、助言や励ましの言葉をかけ、自信や意欲を持たせるようにする。 ・ボーナス得点を意識させ、シュートの苦手な児童にも、シュートチャンスが巡ってくるようにする。 ・コートに制限を加え、各チーム1人（たすきをつける。）は、コート2/3しか動けないことにすることにより、3対2の場を生かした攻撃ができるようにする。 ・日本との交流試合なので、勝敗にこだわらない試合を心掛けさせる。 ・試合数を確保するために、1ゴール負け交代制とする。
まとめ 10分	<p>6. ゲームの反省とまとめをする。</p> <p>7. 整理運動をする。</p> <p>8. 後片付け、あいさつをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆チーム内で互いに協力し、声をかけ合い、最後まで最善を尽くしてゲームをすることができたか？ ☆パスやドリブルを使い、ボールをゴール下に素早く運び、シュートにつなげるゲームができたか？ ☆場やルールを生かし、一人ひとりが動きのめあてをもって練習したり、ゲームで使おうとしたりすることができたか？ ○授業の記念に、児童に英語での感想を書いていただきたい。 ・協力して後片付けをさせる。元気よく終わりのあいさつをさせる。

3. 備考

- ・授業時間が70分から80分ぐらいあると有り難いです。
- ・チーム分けを事前にして頂けると助かります。（1チーム6~8人）
- ・バスケットコート2面確保、準備物の用意をお願いします。用意できない物をお知らせください。
- ・参観者（上教大学生）の方も子ども達の支援者として参加して頂ければ幸いです。また、ビデオ・写真撮影のお手伝いをして頂けると有り難いです。